

特集



企画：中村 康彦（医療法人社団愛友会上尾中央総合病院理事長）

現代社会において、病院建築は単なる物理的空間を超えるものであり、医療サービスの質に大きく影響を及ぼす重要な要素である。しかし、建築費の高騰、施設の老朽化、環境への配慮、最先端技術の統合など、多くの課題が存在する。これらの課題への対応は、病院建築の未来に大きな影響を与えるであろう。本特集では、「病院建築に未来はあるか?」という問いを掲げ、現在の病院建築が直面する課題と、それに対する革新的な対応策に焦点を当てる。また、この特集を通じて、国内の実践事例を基に病院建築の在り方を考察する。

本特集の論旨が分かる Point 一覧

p.100 建設費の値動きが激しい昨今、病院建設を安心して進行させるためには、早い段階での市況を的確につかんだ企画立案が最も重要であり、そのためには建築専門家の早期参画が必須となる。近年は、設計者でもなく施工者でもない建築専門家＝コンストラクション・マネジャーがプロジェクトの初期段階から支援する事例が増えている。（山根 直樹）

p.106 昨今の建築費高騰に伴い、新病院予算に占める建築費の割合が増え、医療機材の予算が減額されるケースも多い。限られた予算の中で新病院の機能を充足させるための医療機材調達を行うには、設計段階から医療機材の選定・配置・購入移設検討・追加工事費削減ということが必要である（秋庭 正和）

p.112 近年、病院の建築単価は急上昇している。その中で、ローコストで質の高い建築を行うには、自院に必要な病院機能を絞りこんで適切な設計を行い、発注を行うしかない。病院を建て替えていくためには、さまざまなリスクを考え、知恵を絞った建築計画が求められる時代となっている。（伊関 友伸）

p.118 建築費が高騰し病院の全面建て替えが難しくなると、整備時期を分けた段階的な増築や、医療環境の変化に追従するための改修など、施設管理と病院経営を戦略的に俯瞰し管理することが重要になる。ハード面とソフト面を一体で管理するファシリティマネジメントの考え方を活用することで、資産価値と投資効率を向上させることができると考える。（森 佐絵）

p.126 職員の採用困難で病床稼働制限の病院が増えている。建築費コントロールと職員の採用・定着環境改善の両立を踏まえる上で、病院DXを取り入れた建築計画が重要である。（太田 昇蔵）

p.134 病院建物の老朽化が原因で医療を止めてはならない。しかし、高騰し続ける現在の建築費で建て替えを進めれば病院経営に深刻な影響を及ぼす。われわれは解決策を模索し続けなければならない。（山口 学）